

【三井グループ 350 周年記念事業】

「三井みらいチャレンジャーズオーディション」最終通過者を発表！

三井グループの元祖・三井高利のイノベーション精神を継承し
未来の社会のために自らチャレンジする若者 30 人を、三井グループ 25 社が発掘・サポート

昨年 2023 年は三井グループの元祖「三井高利」が江戸に進出し日本橋に越後屋を出店した 1673 年から 350 年の節目の年となりました。この間私どもは、自由闊達な風土の中、「ひと」を守り豊かに育むことを続け、常に「ひと」を基軸に、新たな時代の変化に先見性をもって取り組んできました。三井グループではこの節目にあたり、2023 年度から 2027 年度の 5 年間、グループの存在意義を再確認しながら、社会課題の解決に取り組む姿勢を体現すべく記念事業を実施しております。

「三井みらいチャレンジャーズオーディション」は、「事業・社会活動」「研究・留学」「カルチャー創造」の 3 分野で、未来に向けた良き社会づくりに夢や目標を持ち、チャレンジする若者を発掘・支援するオーディションです。3 部門合計で、722 名のチャレンジャーから応募があり、総勢 10 名の審査員による、「みらい履歴書・計画書の審査」「動画審査」「対面審査」の 3 段階の審査を経て決定した、最終通過者を発表いたします。最終通過者は 2027 年度まで三井グループ 25 社が継続的に支援を行い、イノベーションを起こしみらいを変えていくチャレンジを応援してまいります。



最終審査会の様子

三井みらいチャレンジャーズオーディション概要

【募集部門と求める人物像】

① 事業・社会活動部門

-新しい事業や社会貢献活動によって、世の中にイノベーションを起こそうとしている人

② 研究・留学部門

-より良い未来の社会を目指し、海外への留学も含め様々な場で学び、研究しようとしている人

③ カルチャー創造部門

-自らの文化芸術活動を通じて新しいカルチャーや価値観の創造に挑もうとしている人

【最終通過者への支援内容】

最終審査を通過した方が主体的に事業・研究・制作活動を進められるよう、支援金やネットワーキングおよび一定のプラットフォームの提供等、最長 2027 年度まで三井グループ 25 社※がサポートします。

- ・活動に対する支援金として一律 500 万円の提供（初年度）
- ・活動状況や資金ニーズに応じた追加の支援金の提供（2 年目からの最長 3 年間）
- ・オーディション通過者には通過者同士のネットワーキング機会の提供など、一定のプラットフォームを提供
- ・チャレンジ内容やその後の活動進捗なども踏まえた通過者個々人に合わせた支援

■ 三井グループ 350 周年記念事業実行委員会 委員長メッセージ



三井グループ 350 周年記念事業では、“みついのちからを、みらいのひとに”というコンセプトのもと、未来を担う子供たちの平和を支える力を育む「青少年赤十字活動」との連携プロジェクトや三井文庫の貴重な史料の「保存」と「利用」の両立を図るデジタルアーカイブ事業、慈善病院を起源としつつ、地域での高度な医療の提供を支えている「三井記念病院」への支援など、様々な取り組みが始まっています。

この「三井みらいチャレンジャーズオーディション」は、三井高利のイノベーション精神を継承し、夢や目標を持ちチャレンジをする次の時代を担う若者を発掘・応援しようというプロジェクトです。昨年 8 月に応募受付を開始しましたが、締め切り迄の 3 か月間に 722 名のチャレンジャーが名乗りを上げてくださいました。「熱い想い」と「高い志」で「これからの世の中に大きな影響を与えたい」という強い決意を感じる方ばかりでした。自らの意思で一步を踏み出し、このオーディションに参加をしてくれた若いチャレンジャーたちは、みな未来を担う有望な人材です。応募をしてくださった全てのチャレンジャーに敬意を表します。そして最終通過者を含めたチャレンジャー達全員のこれからの飛躍・活躍を、心より祈念いたします。

三井グループ 350 周年記念事業実行委員会 委員長
三井不動産株式会社 代表取締役会長 菰田正信

最終通過者のご紹介

※詳細については三井みらいチャレンジャーズオーディション 公式 HP を参照ください。
[三井グループ 350 周年記念事業 \(mitsui350th.com\)](https://mitsui350th.com)

① 事業・社会活動部門 ※五十音順

猪村 真由さん
(イムラ マユ)



入院という時間をちょっと特別にする
イノベーションプログラム「Adventure」

大砂 百恵さん
(オオスナ モモエ)



e-Combu

大村 慧さん
(オオムラ ケイ)



移動のインフラとなる、未来の医療・
福祉モビリティサービス「mairu」

大森 美紀さん
(オオモリ ミキ)



排水処理から水の
価値連鎖を生む

岡本 萌花さん
(オカモト モエカ)



RE FASHION MARKET

大日 方伸さん
(オビナタ シン)



『循環型装飾社会』へ。3D
プリントを生産基盤とした
デジタルテーラーメイドものづくり

加藤 路瑛さん
(カトウ ジエイ)



五感にやさしい社会の創造事業

齋藤 杏実さん
(サイトウ アミ)



サブサハラにおいて誰もが農業
機械にアクセスし、持続的な
農業が行える社会を作る

中原 楊さん
(ナカハラ ヨウ)



音声認識と AI 要約によるカルテ
自動生成で医療現場に革新を

橋爪 海さん
(ハシヅメ カイ)



株式会社 Boon : 食品残渣
を活用した持続可能な
飼料原料供給

② 研究・留学部門 ※五十音順

王 方成さん
(オウ ホウセイ)



深宇宙探査・開発のための
超小型衛星群インフラ

北井 朝子さん
(キタイ アサコ)



細胞にセキュリティをかけるための、遺伝
子発現ゆらぎの定量とシステム解明

久保田 しおんさん
(クボタ シオン)



ニュートリノ検出器における電
荷検知技術の開発

佐藤 愛海さん
(サトウ マナミ)



クラゲの無性生殖メカニズムの
解明と応用に向けた研究

鈴木 健太さん
(スズキ ケンタ)



数学研究で拓く未来

高井 万弥さん
(タカイ マヤ)



Harvard Graduate
School of Design
Master of Architecture

巴山 未麗さん
(トモヤマ ミレイ)



言語の視点からグローバルを
再構築する

プラートアルヴィンさん



二重コンクリーションの形成メ
カニズムの解明と地質学的物
性の制御法の確立

水澤 佑介さん
(ミズサワ ユウスケ)



地方振興における文化観光
普及の経済的意義

宮瀬 環さん
(ミヤセ タマキ)



ポストデジタル社会における人間
と衣服の相互関係性の研究

③ カルチャー創造部門 ※五十音順

稲垣 桃さん
(イナガキ モモ)



ART による社会問題の「自分ごと化」

牛田 智大さん
(ウシダ トモハル)



「音楽とはなにか - その体系的全容 “ICAM” (A. Agazhanov, 2022, 仮題)」日本語訳出版プロジェクト

大塚 健太郎さん
(オオツカ ケンタロウ)



世界中の有形・無形文化を現代に「翻訳」し、分断を乗り越える新たなカルチャーを日本から世界へ。

梶本 大雅さん
(カジモト タイガ)



ようこそ絵本の音楽会へ全国で始まる豊かな「祭」の創造

桂 枝之進さん
(カツラ エダノシン)



Z 落語

久保田 徹さん
(クボタ トオル)



長編ドキュメンタリー映画『ミャンマー・ジャーナリスト (仮)』制作と Docu Athan プロジェクトによる自由な空間の創造

高橋 鴻介さん
(タカハシ コウスケ)



接点の発明：新しいコミュニケーションの方法を作る

武田 かりんさん
(タケダ カリン)



たくさんの人の人生を照らす物語を作る

田中 亜希子さん
(タナカ アキコ)



「ミュージカル甲子園」

向井 響さん
(ムカイ ヒビキ)



人形浄瑠璃の新しい可能性乙女文楽「美少女革命」プロジェクト

■ 審査員

事業・社会活動部門



鈴木 寛 (すずき かん)
東京大学公共政策大学院教授
／慶応義塾大学 SFC 特任教授



田口 一成 (たぐち かずなり)
ボードレス・ジャパン
代表取締役社長



米良 はるか (めら はるか)
READYFOR 株式会社代表
取締役 CEO

研究・留学部門



小林 りん (こばやし りん)
ユナイテッド・ワールド・カレッジ
(UWC) 国際理事



富田 勝 (とみた まさる)
慶應義塾大学 名誉教授／一
般社団法人 鶴岡サイエンスパー
ク代表理事



丸 幸弘 (まる ゆきひろ)
株式会社リバネス 代表取締役
グループ CEO 博士 (農学)

カルチャー創造部門



撮影：諸井純二

大宮 エリー (おおみや えりー)
画家



太刀川 英輔 (たちかわ えいすけ)
デザイナー (プロダクトデザイナー・グラフィッ
クデザイナー・建築家)
デザインストラテジスト／創造性教育者
(進化思考の提唱者)



細尾 真孝 (ほそお まさたか)
株式会社細尾 代表取締役社長
MIT メディアラボ ディレクターズフェ
ロー



松山 智一 (まつやま ともかず)
現代美術家

■ 審査員コメント（一部）

カルチャー創造部門審査員 太刀川さんコメント

純粋に応援したくなる才能が、様々な文化の分野にいることに驚きました。一人の日本人として、皆さんの存在が頼もしい。それぞれの分野を背負う次代の人として、未知を切り開いてください。お分かりの通り、ここはゴールではなく、少し加速できるカタパルトです。この勢いを利用して、できる限り遠くに玉を投げましょう。かつての日本橋から生まれた三井のように、みなさんの活動が次の 350 年に残ることを想像してみてください。

事業・社会部門審査員 田口さんコメント

まずは、「ありがとう！」と言いたいです。日本、そして世界の社会課題に全身全霊で挑んでいる皆さんは、もちろん自分がやりたくてやっていると思います。でも、それと同時に「ほっとけない」「自分がやらなきゃ」という強い気持ちも同時に感じました。社会の課題をみんなの希望に変えていく、皆さんの挑戦に心から敬意を表すと共に、自分にできることは全力で応援させていただきたいと思います。共によい世界をつくっていきましょう！

※三井グループ 25 社（350 周年記念事業実行委員会 25 社）

株式会社 IHI/王子ホールディングス株式会社/三機工業株式会社/株式会社商船三井/太平洋セメント株式会社/
株式会社 TBS ホールディングス/デンカ株式会社/株式会社東芝/東レ株式会社/トヨタ自動車株式会社/
株式会社ニッポン/株式会社日本製鋼所/日本製紙株式会社/富士フイルムホールディングス株式会社/
株式会社三井 E&S/三井化学株式会社/三井金属鉱業株式会社/三井住友海上火災保険株式会社/
株式会社三井住友銀行/三井住友建設株式会社/三井住友信託銀行株式会社/三井倉庫ホールディングス株式会社/
三井不動産株式会社/三井物産株式会社/株式会社三越伊勢丹ホールディングス/（50 音順）

本記念事業活動は、三井グループの中核企業 25 社で構成される二木会の経営層からなる実行委員会にて運営されます。